

『寛骨臼関節面の形態による関節内病態への 影響についての検討』についてのご説明

1. 研究の目的

日本では、股関節の屋根の部分小さい「寛骨臼形成不全」と言われる症例が多く、将来関節の軟骨が減少してしまう変形性関節症への進行が危惧されます。当院では寛骨臼形成不全の患者さんに屋根の部分を広くする目的で寛骨臼回転骨切り術を行っています。術後の疼痛・関節変性の進行を減らすため、当院では寛骨臼回転骨切り術の術後成績向上のための研究を行っています。寛骨臼回転骨切り術による成績向上を目標としています。

医学上の貢献：この研究参加により術後に関節変性が進行する原因を明らかにし、将来人工股関節置換術が必要となる症例数を減少させることが期待できます。

2. 研究の方法

- 対象となる患者さん

2014年1月1日から2018年12月31日までに当院の整形外科にて寛骨臼形成不全の診断を受けた患者さんが該当します。

- 予定症例数は50症例となります。

- 利用するカルテ情報

年齢、性別、罹患側、画像所見、機能評価表を使用します。

- 研究期間

病院長承認日から 2021 年 3 月 31 日です。

過去の資料を用いるため、患者さんに新たな検査を行うことはありません。

3. プライバシーの保護

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

4. 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

この研究へのご自分の診療情報の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。調査期間中であってもいつでもお断りいただけます。

その場合は、下記担当医にお申し出ください。

ただし、ご連絡を頂いた時点で既に、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなります。

連絡先

〒 060-8543 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学医学部 生体工学・運動器治療開発講座 特任教授 名越 智 (研究責任者)

札幌医科大学整形外科学講座 助教 館田 健児

札幌医科大学整形外科学講座 助教 小助川維摩

札幌医科大学整形外科学講座 診療医 金泉 新

月-金 9:00-17:00 : 電話 011-611-2111 内線 33330 (整形外科学講座)

時間外・休日の連絡先 : 電話 011-611-2111 内線 33410 (8階 南病棟)